

第 2 学年 生活科学学習指導案

平成 23 年 7 月 14 日(木) 3 校時
沖縄市立 高原小学校 2 年 5 組
男子 14 人 女子 13 人 計 27 人
授業者 古 謝 緑

I 研究テーマ

「気付き」の質を高める指導の工夫
— 合科的・関連的な単元計画と「視点」を明確にした学習活動を通して (第 2 学年) —

II テーマ設定の理由

21 世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化を始め社会のあらゆる基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。この変化の激しい社会に対応するには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和した「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。

低学年児童は、その発達段階において、具体的な活動を通して学ぶという特性がある。そのような発達段階にある低学年児童に合わせた教科に生活科がある。生活科は、平成元年改訂学習指導要領において新設、平成 4 年に完全実施されてから、今年で 20 年目になる。生活科は、理科と社会科を統廃合して作られたが、2 教科のもつ内容だけでなく、「児童の発達上の特徴や社会の変化に主体的に対応できる能力等の育成」(昭和 62 年教育課程審議会答申)も求められている。生活科の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」とある。関心を持って活動や体験をする中で思考し、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせて自立の基礎を養うことが、「生きる力」につながると考える。

低学年のほとんどの児童は、体験活動を通して学ぶ生活科の学習が好きである。これまでの実践では、様々な学習活動を仕組むことで、児童の多様な「気付き」が生まれるように指導してきた。飼育活動においては、児童が関心のある生きものの世話をする中で、ザリガニやダンゴムシの脱皮に驚き、メスザリガニの抱卵を見守り、ウサギの心音から命を感じる等、児童は様々なことに気付いた。これらの一つの「気付き」から、関連付けられた「気付き」へ、また、対象への「気付き」から自分自身への「気付き」へと質的に高めていく必要がある。自分自身に気付くことが、自立へとつながると考える。これまで、活動や体験を通して「気付き」はたくさん生まれたが、一つ一つの「気付き」の関連付けが弱く、自分自身への「気付き」へと質を高めるまでには至っていない。平成 20 年中央教育審議会答申でも、「活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が不十分」であることが、課題として指摘されている。

生活科において「気付き」とは、他教科の観点でいうところの「知識・理解」に近いものである。「気付き」の質を高めることは、科学的な見方や考え方の基礎を養うことにつながり、第 3 学年以降の教科、領域の学習につなげる上でも大切である。「気付き」の質を高めるには、見付ける、比べる、た

とえるなど多様な学習活動を工夫して、一つ一つの「気付き」を関連付けていくことが重要である。また、「気付き」を関連付けさせるためには、教科の枠をこえた複数の教科・領域の目標や内容を検討して、合科的・関連的に指導することも有効と考える。さらに、教師の働きかけ、言葉かけも大切であり、児童に気付かせ、気付いたことを基に考えさせる「視点」を明確にする必要がある。活動の内容から考えて、児童に与える「視点」を明確にすることで、「気付き」の質が高まると考える。

そこで、本研究では、合科的・関連的に指導できるように単元を計画し、児童に与える「視点」を明確にして指導することで、「気付き」の質が高まると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

単元「生きものとともにだち」において、合科的・関連的な単元計画を工夫し、児童に与える「視点」を明確にした学習活動を展開することにより、児童の「気付き」が関連付けられ、「気付き」の質が高まると考えられる。

Ⅲ 授業実践(第2学年)

1 単元名 「生きものとともにだち」

学習指導要領の内容 (7)「動植物の飼育・栽培」 (8)「生活や出来事の交流」

2 単元の目標

〔関心〕 生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物を自分たちと同じように生命あるものとして大切に扱おうとしている。

〔思考〕 生き物のすみやすい環境を考えて世話を工夫したり、分からないことを人に相談したりしながら、自分たちで工夫して活動することができる。

〔気付き〕 生き物の世話を続ける活動を通して、その成長の喜びを味わい、生き物も自分たちと同じように成長していることに気付いている。

3 単元について

(1) 教材観

児童は、生き物が大好きである。屋外でバッタやカエルを捕まえ、セミの鳴き声を聞くと採りたがる。自然にいる生き物を自分の手で捕まえることは、児童の好奇心をくすぐるものである。しかし、近年では、児童を取り巻く環境が変化してきている。身近で生き物を捕獲できるような場所が少なくなり、カブトムシやクワガタムシなど、お店で買うことが当たり前になりつつある生き物もいる。また、デジタルゲーム機の普及で、バーチャルの世界で生き物を育てるものもある。ゲームの中では、リセットボタン一つで生命を復活させることができてしまう。

このような状況は、児童の心身に影響を及ぼしている。生命の大切さを知識としては知っていても、生命への実感が伴わないことがある。そこで、生き物とかかわることを通して、何をしてあげたら喜ぶかなと相手を思いやる心を育み、生命は一個体に一つしかない大切な物であると気付くことは、重要なことである。

そこで本単元では、教室でモルモットを飼育することで、直接触れ合い、世話をするなど、実際に関われるようにする。また、身近な自然環境としての校庭で生き物を探し、捕まえて飼育したり、じっくり観察したりする活動をする。それらの活動を通して得た「気付き」を交流することで、「気付き」が関連付けられ、「気付き」の質が高まると考える。児童は、生き物と触れ合い、継続的な飼育を通して、様々な困難や喜び、感動と出会うことが予想される。そのような体験から学ぶこと

はたくさんある。

これらの活動を通して、生きものに親しみを持ち、それらが生命をもっていることや成長していることに気づき、大切にすることができる心豊かな人になることを願い、本単元を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、素直で明るく、生き物好きな子が多い。また、活動的な学習を好む子も多く、1年生に学校のことを教える「学校たんけん」では、グループで協力して成功させることができた。また、「たんけん はっけん 大ぼうけん」では、地域の自然や人々と関わりながら町探検をし、さまざまな発見や出会いの楽しさを味わっている。また、4月から教室にいるザリガニに興味を示したり、カエルを捕まえてきて教室で飼育をしたりしている。

今回、生きものを扱うということで、生きものへの興味・関心や経験、願いを調べるために、事前にアンケートを実施した。結果は次の通りである。

① アンケートの結果 6月実施 2年5組 (n=27名)

質問1 生き物は好きですか？

好き24人 どちらかというとき好き3人 どちらかというとき嫌い0人 きらい0人

・どんな生きものが、好きですか？（複数回答） ※カッコ内は人数

哺乳類（うさぎ7、ひよこ5、犬4、ねこ3、モルモット3、ハムスター3、他）

鳥（イソヒヨドリ1）水棲動物（グッピー5、ザリガニ4、カエル・オタマジャクシ4、金魚2）昆虫（バッタ4、クワガタムシ4、カマキリ2、カブトムシ2）、

質問2 生き物をつかまえたことがありますか？

はい 24人 いいえ 3人

質問3 今までに、生き物を育てたことはありますか？

はい 24人 いいえ 3人

・育てた生きもの（複数回答）※カッコ内は人数

哺乳類（犬4、ねこ1他） 水棲動物（グッピー5、ザリガニ4、金魚4、メダカ1、魚1
ネオンテトラ1）昆虫（クワガタムシ3、カブトムシ2、カマキリ1、バッタ1、セミの幼虫1）

質問4 生き物を育てるのは、楽しいですか？（育てたことがあると答えた24人中）

はい 20人 いいえ 4人

質問5 家で生き物を育てていますか？

はい 18人 いいえ 9人

・どんな生き物を育てていますか？（複数回答）※カッコ内は人数

哺乳類（犬5、ねこ1、ハムスター1、ねずみ1、他）水棲動物（ザリガニ3、金魚3、魚1、
グッピー1、メダカ1、ネオンテトラ1、）昆虫（カマキリ1、トンボ1）

・どんなお世話をしていますか？（複数回答）※カッコ内は人数

えさやり（16）、水替え（11）、散歩（2）、うんち取り（1）、お風呂（1）

質問6 これから、どんな生き物を育ててみたいですか？

哺乳類（犬5、ねこ3、モルモット2、ハムスター2、うさぎ1、モモンガ1、ヒヨコ1、馬1）

鳥（スーサー1）水棲動物（グッピー2、ザリガニ1、カエル1、エビ1、カニ1、カメ1）

昆虫（クワガタムシ3、カブトムシ2、カミキリムシ1）、その他（カメレオン2）

② 考察

調査結果をみると、学級の 27 人の児童全員が、生き物が好きと答えており、生き物への関心は高い。次に、生き物を自分で捕まえた経験を調べると、24 人に経験があり、場所は、家の庭、公園、学校など、身近で捕まえている。さらに、生き物の飼育の経験の調査では、24 人に経験があり、室内で育てられる水棲動物や昆虫が多い。ザリガニやグッピーは、教室でも飼育しているので、児童は身近に感じているようである。飼育の経験がある児童に、飼育が楽しいかと聞くと 24 人中 20 人は、楽しいと答えた。楽しくないと答えた一人に、大事に育てていたザリガニが死んだからという理由もあった。ザリガニの死が心に響いたようである。

家庭での飼育状況の調査では、18 人が飼育しており、哺乳類では、犬が 5 人、ハムスター、猫、ネズミを飼っている児童が 1 人ずついる。水棲動物では、ザリガニ 2 人、金魚 2 人、グッピー、メダカ、熱帯魚が一人ずつと魚を飼っている児童がいる。昆虫では、カマキリ、トンボを飼っていると答えた児童がいる。世話としては、餌やり、水替えなどをしていると答えた児童が多く、家庭でも生きものとの関わりがある。

これからお世話をしてみたい生き物を、教室で飼えそうなものと限定をして質問すると、哺乳類、水棲動物、昆虫など多種挙がってきた。児童は、自分の経験と照らし合わせて、教室で飼えそうな生き物を挙げている。

調査結果より、学級のほとんどの児童は、生き物への興味・関心は高く、自分で捕まえた経験や飼育の経験もあることから、生き物を捕まえて飼育する活動は、進めやすいと考える。また、児童が、飼育してみたい生き物の中に哺乳類も挙がっていることから、モルモットの導入は、関心をもって受け入れられると考える。さらに動物に対するアレルギーの有無を保護者に確認した結果、一人もいなかった。児童の中には、生き物の死を辛いこととして受け止めている児童もいることから、その扱いに配慮することとする。

(3) 指導観

本単元を指導するにあたり、日頃から身近な生き物に目を向けさせておくことや、道徳教材をつかうことで、単元導入のきっかけとする。導入後、生き物への関わりが休み時間や放課後等の授業時間外でもなされるようにすることや、国語科や図画工作科、道徳など、関連する教科・領域において、合科的・関連的に扱い、児童の関心と意欲が継続する中で学習ができるように配慮する。毎日世話をする活動を通して、準備や後始末などの生活習慣や技能の向上を図る。

更に本単元では、毎時間の「視点」を明確にして学習活動を展開する。本研究では、教師の明確な指導意図に基づいて、児童の思考や活動を促す問いかけや呼びかけの言葉を、「視点」とする。例えば、飼育する生き物について考えさせるために、「どうやって育てようか？」と問いかけたり、生き物に寄り添って世話ができるように、「どうすれば喜んでくれるかな？」と問いかけたりするなど、活動において、児童が常に活動指針となるように「視点」を与える。

学習活動の中に①振り返り表現する活動②伝え合い交流する活動③試行錯誤や繰り返す活動④児童の多様性を生かす活動を設定する。以上のことを織り込みながら、「気付き」の質が高まるように学習を進めていきたい。児童の多様性や主体性を生かすために、自分で選んだ生きものを飼育して、発見したことや調べたことをまとめて発表する。観察記録用のワークシートは、数種類の準備しておき、児童の思いに合わせて選んで書き、ファイルしていくようにする。振り返り表現する活動として、活動後に自己評価を入れ、話し合う場を設ける。また、生き物の飼育で餌やすみかを工夫するなど、活動を進める中で、試行錯誤や繰り返す活動を取り入れる。伝え合い交流する活動

では、常時できることとして、「見つけたよ」掲示板を作成し、児童が発見したことをカードに書いてはり、みんなで読み合い、「気付き」を全体で共有できるようにする。また、「生きもののおせわやかんさつをして、気付いたことやわかったことをしょうかいし合おう」の授業を設定する。そこで、自分の飼育した生き物を紹介し合い、全体で「気付き」を深め、共有していきたい。

さらに本単元では、教室でモルモットの飼育を設定している。モルモットは、大人しく、体温を感じる生き物として教室での飼育にむいていると考える。継続的な飼育をすることで、モルモットへ愛着をもたせ、聴診器でモルモットの心音と自分の心音を聞くことで、生きものへの関心や生命について考える機会にしたい。万が一のモルモットのけがや病気の際の支援のために、獣医師と連携を図る。また学級では、4月から継続的にザリガニやグッピーなどを飼育しており、児童が生き物に対しての「気付き」を多くもてるように配慮している。

4 単元の評価規準

〈「動物と飼育」の評価規準に盛り込むべき事項〉

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
生き物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しんだり大切にしたりしようとしている。	生き物を飼育することについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	生き物は生命をもっていることや成長していること、生き物と自分のかかわりに気付いている。

〈具体の評価規準〉

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・身近な生き物を触ったり、抱いたり、えさをやったりなどして、関心をもってかかわろうとしている。 ・生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、世話しようとしている。 ・育てている生き物に心を寄せ、繰り返しかかわろうとしている。 ・生き物に親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。	・育ててみたい生き物を選んだり決めたりしている。 ・生き物の育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫している。 ・生き物の立場に立って考え、世話の仕方を工夫している。 ・育ててきた生き物とのかかわりを振り返り、自分なりの方法で表している。	・生き物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ・育てている生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ・生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ・生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

5 指導計画(全18時間)：[生活(12)、国語(2)、図工(2)、道徳(2)]

	目標	○主な学習活動 ☆支援 計画	観点別評価規準(B基準)	視点
1 / 4 時間 小さなともだち (生活)	・モルモットに関心を持ち、飼育の準備をすることができる。	○モルモットと出会うことで関心を持ち、飼育のきっかけにする。 ○モルモットの飼い方を、図書資料で調べる。 ☆生き物に関係した本を準備し、児童が読めるようにする。 ○飼育の準備を考え、発表することで準備するものをイメージする。 (振り返り表現する活動) 1/18	[関]モルモットに関心を持ち、進んで関わろうとしている。 [気]モルモットを大切に育てたいという願いをもって友だちと話し合い、モルモットに適した世話の仕方があることに気付いている。 発言・行動・ワークシート	「どうやってそだてようか。」

小さなともだち (生活) 2, 3, 4 / 4時間	・モルモットの飼い方を調べ、世話をすることができる。	○モルモットのすみかや餌を準備して迎え、世話をしたり、観察をしたりすることができるようにする。 ☆モルモットは、どうすれば喜ぶかを考えるように促す。 ☆モルモットの名前を考えさせ、愛着を持つようにする。 (伝え合い交流する活動) 2/18	[思]モルモットを大切に育てたいという願いを持って、すみよい環境を工夫することができる。 行動・発言・ワークシート	「どうすれば、仲よくなれるかな。」 「どうすれば喜んでくれるかな。」
	・身近な自然に住む生き物に興味を持ち、生き物探しの準備をすることができる。	○校内の身近な自然にすむ生き物を探し、見付けた場所を校内マップにかきこむ。 ○身近な自然にすむ生き物に関心を持ち、生き物探しに必要な物を考える。 ☆採る物、入れる物、他に必要なものはないか声かけする。 (児童の多様性を生かす活動) 3/18	[思]生き物の好む環境を考えて、生き物がいる場所を探し、準備するもの、生き物探しの約束を考えることができる。 行動・発言・ワークシート	「どこに、どんな生き物がいるのかな。」
	・友だちと協力して、身近な自然の中で、生き物探しをすることができる。	○校内マップを見て、友だちと協力して、生き物探しをする。 ☆校内マップを参考に、生き物のいそうな場所を探すように促す。 (試行錯誤や繰り返す活動) 4/18	[関]生き物に関心を持ち、進んで生き物を探し、生き物に関わろうとしている。 行動・発言	「校内マップを見て、育てたい生きものを採りに行こう。」
毎日のせわ (生活) 1, 2 / 4時間＋日常活動	・モルモットなど生き物の飼い方を調べ世話をすることができる。 ・生き物の様子や成長に関心を持ち生き物の好む環境を考えながら世話をしたり観察をしたりすることができる。 ・困ったことが起きた時には、専門の方に相談するなどして、対応することができる。	○生き物の飼い方を話し合い、生き物の世話の仕方を調べ、世話や観察をする。 ☆児童が選んだ生き物に関係した本や資料をコーナーに増やしておく。 ☆いつでも使えるように虫眼鏡を準備しておく。 (児童の多様性を生かす活動) 5/18	[思]生き物の世話をしたり観察をしたりして気付いたことや感じたことなどを、工夫して表現することができる。 行動・発言・ワークシート	「どんなすみがいいのかな。」 「何を食べるのかな。」
		○調べたことをもとに、生き物の世話をしたり、観察をしたりできるようにする。 ☆生き物が、喜ぶような世話をしあけるように話す。 ☆世話の仕方を、本やインターネットを使って、調べるように話す。 (試行錯誤や繰り返す活動) 6/18	[思]生き物の立場に立った関わり方を考え、やさしく扱うことができる。 [気]生き物の観察を通して、生き物の特徴に気付いている。 行動・発言・ワークシート	「どうすれば、仲よくなれるかな。」 「どうすれば喜んでくれるかな。」
(国語) かんさつ名人になろう 1 / 2	・書くときに大切なことに気をつけて、観察記録文を書くことができる。	○記録文の書き方を生かし、観察する観点を明確にして観察記録文が書けるようにする。 ☆五感のアンテナを使って、大きさ・形・色・数・長さ・手ざわり・においに気をつけて書くように助言する。 (振り返り表現する活動) 7/18	[書]観察記録文を書くときに大切なことに気をつけて書いている。 [気]生き物の特徴に気付いている。 観察記録文	「目・耳・鼻・手・口のアンテナを使って、生き物の観察記録文を書こう。」
(道徳) ふしぎな音 1時間	・生命のすばらしさに気付き、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。 (生命尊重)	○題材を通して、生きることを喜び、生命を大切にすることを心をもつことができるようにする。 ☆聴診器で心音を聞いてみよう。(自分自身の心音、モルモットの心音) 8/18	[気]生命のすばらしさに気付きかけがえのない生命を大切にしようとする心を高めることができる。 発言・手紙	「命ってどうするとわかるかな。」

毎日のせわ (生活) 3, 4 / 4 時間	・モルモットなど生き物の飼い方を調べ、世話をすることができる。 ・生き物の様子や成長に関心を持ち生き物の好む環境を考えながら世話をしたり観察をしたりすることができる ・困ったことが起きた時には、専門の方に相談して、対応することができる。	○調べたことを基に、生き物の世話をしたり、観察をしたりできるようにする。 ☆生き物が喜ぶ世話の方法を一緒に考える。 (試行錯誤や繰り返す活動) 9/18	[思]生き物の好む環境を考えてすみよい環境を工夫したり、トラブルに際しては生き物の身になって考え、行動したりすることができる。 行動・発言	「どうすれば、仲よくなれるかな。」 「どうすれば喜んでくれるかな。」
		○調べたことを基に、生き物の世話をしたり、観察をしたりできるようにする。 ☆生き物が喜ぶ世話の方法を一緒に考える。 (試行錯誤や繰り返す活動) 10/18	[思] 生き物の好む環境を考えてすみよい環境を工夫したり、トラブルに際しては生き物の身になって考え、行動したりすることができる。 [気]生き物の観察を通して、生き物の特徴に気付いている。 行動・発言	「どうすれば、仲よくなれるかな。」 「どうすれば喜んでくれるかな。」
かんさつ名人になろう(国語) 2 / 2	・書くときに大切なことに気をつけて、観察記録文を書くことができる。	○記録文の書き方を生かし、観察する観点ははっきりと持たせて書けるようにする。 ☆大きさ・形・色・数・長さ・手ざわり・においに気をつけて書くように助言する。 11/18	[書]観察記録文を書くときに大切なことに気をつけて書いている。 [気]生き物の特徴に気付いている。 観察記録文	「目・耳・鼻・手・口のアンテナを使って、生き物の観察記録文を書こう。」
かわいい生きもの(図工) 2 時間	・粘土の技法を生かし、生き物の特徴やかわいいと思う動きを捉え、表すことができる。 ・友だちの作品のよいところをみつけて、自分の作品に生かすことができる。	○生き物がかわいい動きをしているところを動作化し、粘土で表せるようにする。 ☆自分の世話をしている生き物のかわいいと思うところをまねしてみよう(動作化させる)。 12,13/18	[関]自分の世話をしている生き物のかわいいと思うしぐさを粘土で表そうとしている。 行動・作品	「生き物のかわいいしぐさを粘土で表してみよう。」
ハムスター(道徳) 1 時間	・動植物には全て生命があることに気が付き、生命を大切にしようとする心情を育てる。(生命尊重)	○動物に命があることを知り、大切にすることができるようにする。 ☆モルモットや自分の生き物が、元気でいられるような世話をするように助言する。 14/18	[気] 動植物にはすべて生命があることに気が付き、生命を大切にしようとする気持ちを高めることができる。 発言・ワークシート	「生き物のお世話をしている、うれしいこと、大変なことは何かな。」
生きもの大すき(生活) 4 時間	・モルモットなど生き物を飼育してきて、気付いたことや感じたことを表現したり、伝えたりすることができる。	○生き物を世話してきて、気付いたことや感じたことを多様な方法で表現する。 ☆どんな方法で伝えるか一緒に考える。(絵、紙芝居、劇、他) (振り返り表現する活動) 15/18	[思]生き物の世話をして感じたことや、観察したことなどを表現することができる。 発表・ワークシート	「どんなことを、どんな方法で紹介しようかな。」
		○生き物を世話してきて、気付いたことや感じたことを学級の友だちに伝えることができるようにする。 【第1回 学級発表会】 ☆大きな声で発表すると、よく伝わることを知らせる。 ☆友だちの生き物のことが分かるように、よく聞くよう助言する。 (伝え合い交流する活動) 16/18	[思]生き物の世話や、観察をして気付いたことやわかったことなどを、工夫して表現することができる。 [気]自分や友だちが生き物の世話をしてきたことを振り返って、生き物に愛着を覚え、大好きになってきたことに気付いている。	話し手 「○○はかせになって、生きもののことをおしえよう。」 聞き手 「自分の生き物とにているところ、ちがうところ、

	○生き物を世話してきて、気付いたことや感じたことを学級の友だちに伝えることができるようにする。 【第2回 学級発表会】 ☆大きな声で発表すると、よく伝わることを知らせる。 ☆友だちの生き物のことが分かるように、よく聞くよう助言する。 (伝え合い交流する活動) 本時 17/18	[思]生き物の世話や、観察をして気付いたことやわかったことなどを、工夫して表現することができる。 [気]自分や友だちが生き物の世話をしてきたことを振り返って、生き物に愛着を覚え、大好きになってきたことに気付いている。 発表・ワークシート	はじめてしまったこと、すごいと思うところを見つけよう。」 「友だちのがんばっているところを見つけよう。」
	○生き物を世話してきて、気付いたことや感じたことを、1年生に分かるように伝えることができるようにする。 ☆1年生が分かるように、大きな声でゆっくり発表するように助言する。 (伝え合い交流する活動) 18/18	[思]生き物の世話をして感じたことや、観察してわかったことなどを、1年生がわかるように工夫して表現することができる。 発表・ワークシート	「1年生にわかるように、生きもの説明しよう。」

6 本時の指導 (17/18)

(1) ねらい

生き物の世話や観察したことを振り返り、わかったことをお友だちと伝え合うことで、生き物の特徴や生き物に愛着を持っている自分に気付くことができる。[気付き]

(2) 授業仮説

生き物の世話や観察を通して得たたくさんの気付きを、友だちと伝え合うことで、生き物の特徴や生き物に愛着を持っている自分に気付く等、「気付き」の質を高めることができるであろう。

(3) 展開

学習活動○予想される児童の反応	視点◇留意点☆教師の支援◎評価	準備・環境
1 本時のめあてを確認する〈活動への誘い〉。 生きもののおせわやかんさつをして、気づいたことやわかったことをしようかいし合おう。 ○早くおしえてあげたいな。 2 世話をしてきた生き物のことをグループで紹介したり、感想を発表したりする。 〈紹介〉 ○バッタは、草を食べます。 ○グッピーのすみかは、水槽のような虫かごに水草を入れます。 ○モルモットは、毛の色が茶色と白です。子猫くらいの大きさです。足は4本で、指が前足に4本ずつ、後ろ足に3本ずつあります。 ○私は、グッピーの水槽の水替えができるようになりました。 ○私は、モルモットが、「クイッ、クイッ」と鳴くことに気付きました。	◇めあてを確認する。 〈話し手の視点〉 ・〇〇はかせになって、生きもののことをおしえよう！ 〈聞き手の視点〉 ・自分の生き物とにているところ、ちがうところ、 ・はじめてしまったこと、すごいと思うところを見つけよう。 ・友だちのがんばっているところを見つけよう。 ◇話し手、聞き手は、相手を意識して、話したり、聞いたりできるようにする。 ☆「大きな声でお話したほうが、よく聞こえるよ。」と助言する。 ☆「誰が聞き上手かな。」「頑張ったお友だちに拍手をしようね。」と声をかける。 ◇聞き手は、「聞き手の視点」を生かして、友だちの話を聞くことができるようにする。 ◇発表者は、生き物と一緒に前に移動して、準備ができるようにする。	・事前に発表の準備や練習をさせておく。 ・視点を書いた掲示物

〈感想〉 ○モルモットの指の数が違うことにビックリしました。 ○バッタもザリガニも脱皮することがわかりました。 3 本時の活動を振り返り、生き物のことで分かったことや友だちのいいところをワークシートに書く。 ○生き物で、足の数が違うんだな。 ○グッピーがかくれんぼをするのを見るのが楽しい。	◇発表から児童の気付きを取り上げて称賛し、全体で共有することで、気付きを関連付けさせるようにする。 ◎育ててきた生き物とのかかわりを振り返り、自分なりの方法で伝え合っている。【思考・表現】 ◇自分の育てている生き物と比べて、パートナーと感想を伝え合うようにする。 ◇今日の学習を振り返り、生き物の特徴やいいところを見付けて、書くことができるようにする。 ◎生きもののことを紹介し合うことで、教室にいる生き物の特徴や生き物に愛着を持っている自分に気付くことができる。【気付き】	・ワークシート
---	--	----------------

(4) 評価

生き物の世話や観察したことを振り返り、わかったことを友だちと伝え合うことで、生き物の特徴や生き物に愛着を持っている自分に気付くことができる。[気付き]

7 板書計画

生きもの 大すき

めあて

生きもののおせわやかんさつして、
気づいたことやわかったことを
しょうかいし合おう。

〈話し手〉

☆ ○○はかせになって、生きもののことを、
はっぴょうしよう！

〈聞き手〉

☆ じぶんの生きものにているところ、ちが
うところをさがそう。

☆ はじめってしったこと、すごいと思うところ
を見つけよう。

☆ 友だちのがんばっているところを見つけ
よう。

〈生きもの〉

- ・ザリガニ
- ・グッピー
- ・バッタ
- ・モルモット
- ・カナブン
- ・クワガタムシ